

お取引業者様とともに

担当者が恩恵を受けない企業づくり

ワタミ(株)取締役常務執行役員
商品本部長兼海外事業本部長 門司 実

ワタミグループでは、お取引業者様に対して、公平で公正な取引はもちろん、その対応についても謙虚な姿勢で、信頼関係を築くための地道な努力をする企業でありたいと考えています。

本年は一部地域においては地域特性に合わせたメニューや地域限定メニューを導入するほか、介護食・中食の開発に挑みました。このような様々な取り組みが、無事に大きな事故もなく取り組むことができたのは、お取引業者様のバックアップがあったからです。

2006年度は、品質管理の徹底や環境面への取り組みを拡大し、「ワタミと取引をして本当に良かった」と感じていただける関係づくりと、担当がお取引業者様から万が一にも恩恵を受けることのない厳格な企業づくり、社員一人ひとりへの教育に努めていきます。



お取引業者様との交流を

ワタミ(株)取締役常務執行役員
店舗開発本部長 桑原 尚人

ワタミグループでは、全国への店舗展開を背景にそれぞれの地域の不動産業者様とのネットワークを構築しています。

また、店舗の工事期間において安全・安心な現場施工を行うために、ワタミグループ建設に関わるお取引施工業者様35社が主体となり発足された「大鳳会」との交流により安全管理に努めてきました。

2006年度は、年2回の全施工者会議、年2回の大鳳会総会などを中心に、お取引業者様との交流を積極的に行っていきます。

ワタミグループの事業理念を共有していただき、より一層の公平な取引、安全対策・安全管理を推進いたします。お取引業者様の繁栄、ワタミグループとの信頼関係に努めていきます。



お取引業者様との共存共栄を目指して

お取引業者様はワタミの大切なパートナーです。

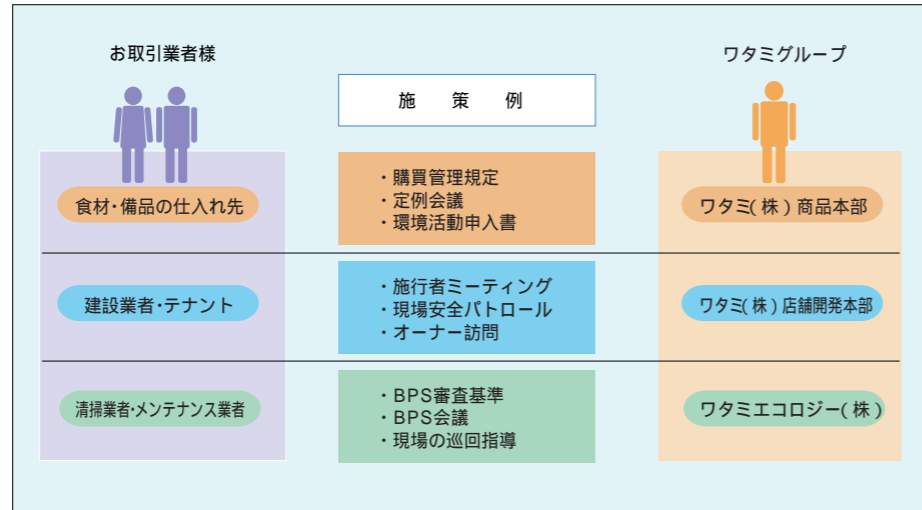
定期的な交流を活かした関係づくり

ワタミでは、お取引業者様と公平で公正な取引を実施するとともに、信頼関係を深めていくためには、相互の理解が不可欠であると考え、積極的な意見交換の場を設けています。

ワタミ(株)商品本部での「より高い品質管理体制」の構築、ワタミ(株)店舗開発本部での「快適な店舗づくりと施工中の安全確保」、ワタミエコロジー(株)では、お客さまからの声を共有し継続的な品質維持向上を図るためなど、お取引業者様と定期的な交流を活かし相互の繁栄に努めています。

また一方で、グループ内の不当な要求などに対する通報窓口を外部委託機関と協力して設置するなど、厳格な社内体制を築いています。

対話・協力の仕組み



食材・備品の仕入れ、物流会社様との取り組み

公正な取引と徹底した品質管理

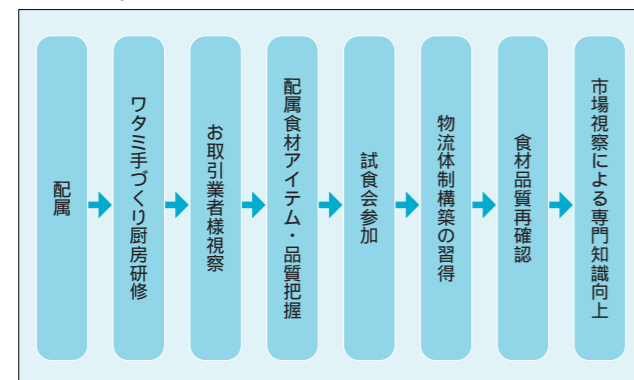
購買方針

ワタミ(株)商品本部では、1996年に策定された「購買管理規定」に基づき、購買業務の責任者を明確にするとともに、独自の基準を設定しています。また、新規お取引業者様を含め公平で公正な評価を実現するために、継続的に使用されている食材などについては、年2回再評価をすることが義務づけられています。

公正な取引と連動する独自のマーチャンダイジング教育プログラム

商品の購買を担当する仕入部では、お客さまに提供する商品の付加価値を高め、お取引業者様との公正な取引を継続するための教育プログラムを導入しています。食材や備品などの専門知識の習得に加え、ワタミ手づくり厨房(集中仕込みセンター)での研修や商品が決定する試食会への参加など、商品の購買だけでなくマーチャンダイジングの一連の流れを全て理解・把握するプログラムです。

また、新規お取引業者様との契約方法や、お取引業者様との公正な取引を徹底するための考え方などの説明が行われ、その徹底を図っています。



ワタミのマーチャンダイジング教育の流れ

品質管理体制

ワタミ(株)商品本部では、定期的にお取引業者様を訪問し、製造されている商品が、仕入れ・調理(製造)などセクションごとに、決められた手順・工程で行われ、一定の品質を確保していることを確認しています。

そのうえで、万が一、異常が発生した場合は、原因を明らかにし、必要に応じてお取引業者様にも書類の提出を求めています。また、発生した異常についてはすべて記録され、再発防止に努めています。

物流の協力体制

ワタミ(株)では、埼玉県・神奈川県・兵庫県にあるワタミ手づくり厨房ごとに、物流体制を整えています。この物流体制に基づいて、それぞれのワタミ手づくり厨房では、毎月、お取引業者様と定例会議を実施し、物流時の品質管理や環境に対する取り組み状況について情報共有を図っています。

万が一、物流時に事故などが発生した場合は即時対応するだけでなく、発生した事故情報を共有することで、再発防止に努めています。

また、新規お取引業者様に対しては、環境に対する取り組み内容をご説明し、協力体制を築くことを目的として「リサイクルの推進、騒音対策、大気汚染軽減への取り組み」を骨子とする環境活動の継続的な実施について書面を取り交しています。

2005年度も、ワタミの取り組み、環境に関する協力体制についてお話をさせていただきました。

2006年度は、お取引業者様と協議の上で監査シートを作成、ワタミ社員が定期的にお取引業者様を訪問、監査を実施する計画となっています。



環境活動申し入れ書:例

建設業者様・オーナー様との協力体制

お店の建設時から安全・安心に配慮

現場安全パトロールの実施

快適な店舗づくりと、施工中の安全確認をする「現場安全パトロール」が、大鳳会(お取引業者様35社により結成された組織)によって行われています。近隣の方々や通行人の安全対策、作業員の健康状態のチェック、防火対策、危険物管理(塗料の保管)など30項目におよぶ項目を確認することで、建設現場の安全確保に努めています。

この現場安全パトロールは、複数の企業担当者が参加し、様々な視点からチェックをすることで、公正な評価を実現しています。

結果は、大鳳会の役員会に報告され、そこにはワタミ(株)の担当者も参加させていただき、積極的な情報交換を行っています。

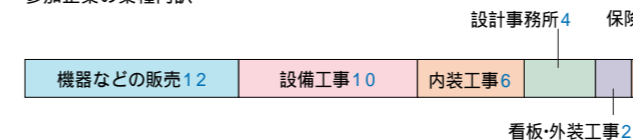
このような活動を自発的、かつ組織的に実施していただけのことでは、ワタミの理念に賛同していただいている結果と考え、大変ありがたいことだと感謝しています。

現場安全パトロール点検表

「大鳳会」の主な活動内容

活動	頻度	内容
総会	年1回	該年度の実施報告および会計報告 翌年の実施計画及び予算審査 社会貢献活動(寄付金額)の報告
役員会	年6回	活動状況の進捗確認
講演	年1回	事業理念・事業展開の説明(ワタミグループトップによる講話)

参加企業の業種内訳



清掃業者様・メンテナンス業者様とビジネスパートナーシップ

広範囲でタイムリーな対応を可能にするBPS

ワタミエコロジー(株)では、お客さまのニーズを満たすためには施設のトラブルを迅速に解決し、広範囲で業務を処理しなければなりません。そのために協会社と積極的に連携する体制として、ISO9001によって管理された継続的な品質維持向上システム「ビジネスパートナーシップ(BPS)」を実施しています。

このビジネスパートナーシップは、協会社は単なるお取引業者様ではなく、共に成長できるパートナーという考えのもとスタートし、ワタミエコロジーの審査基準を満たし、責任者の存在する企業のみが登録されます。

毎月開催されるBPS会議では、前月の評価結果や巡回指導の内容について共有することももちろん、より環境に負荷を掛けない洗剤などの実験結果報告や清掃手順の見直し・標準化についての協議、害虫発生原因など専門分野に関する講義を実施しています。

施工者ミーティングの実施

店舗の設計基準など品質に関する要求事項や環境に対する取り組みについて共有化し、快適な店舗づくりを追求する施工者ミーティングを年2回実施しています。

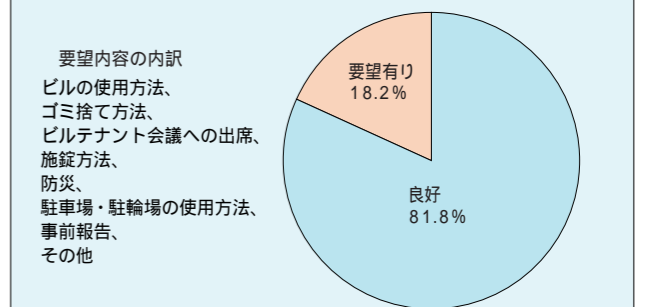
このミーティングには、内装工事や空調設備工事などの建設工事関連の方々に参加し、施工時の問題点やトラブル事例を共有するとともに、実際に使用される「標準仕様書」(詳しくはP21)を用いて基準と改善点の確認を実施しています。

このような機会を通じて、お取引業者様とコミュニケーションを図ることは、品質の向上に欠かせない信頼関係を築く上で重要な活動であると考えています。2005年度は、40社のお取引業者様が参加しました。

TOPICS ワタミに物件の提供をいただいているお取引業者様との協力体制を目指して

毎年12月に、ワタミに物件を提供しているお取引業者様を訪問し、ゴミの捨て方やテナント会議への出席などオーナー様からの要望事項についてご意見を伺っています。

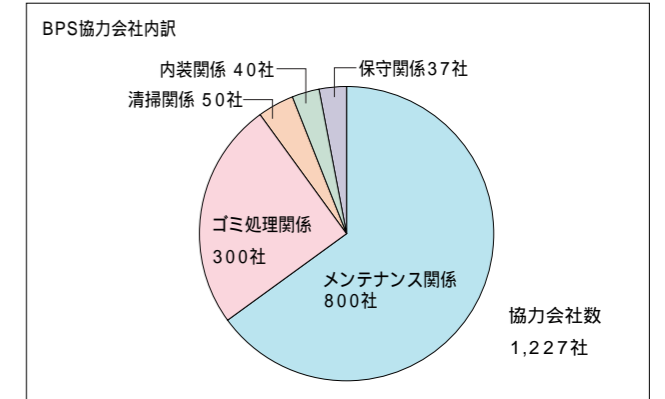
要望事項については即日対応するとともに、一部工事などが必要な案件には、専門部署を通じてその改善に努めています。



要望内容の内訳
ビルの使用方法、
ゴミ捨て方法、
ビルテナント会議への出席、
施錠方法、
防災、
駐車場・駐車場の使用方法、
事前報告、
その他

清掃業者様・メンテナンス業者様とビジネスパートナーシップ

広範囲でタイムリーな対応を可能にするBPS



お客さまとともに

株主様とともに

お取引業者様とともに

従業員とともに

地域・社会とともに

環境とともに

ワタミファームの取り組み

国内農業が根本的に抱える諸問題の解決に貢献したい。

有機農業の振興

2001年より、日本に有機農業を拡げ、技術的側面の普及や啓発活動を行うことも目的に JOHF(Japan Organic Heart Farmers-Food-Family)が主催する生産者会議に出席しています。

この会議では、日本における有機農業の現状について共有するとともに、ワタミグループの人材育成方法やマネジメントシステムの導入について紹介しています。

有機野菜を中心とする「安全で安心なおいしい有機農産物」を栽培する農家を支援・共生し、国内農業が根本的に抱える諸問題の解決に貢献したいと考えています。

また、この会議の終了後には、ワタミファームが主催する交流会(懇親会)を開催しています。2005年度は、有機農産物を栽培する41農家70名の方が交流会に参加しました。



お取引業者様との取り組み

「環境への配慮、資源の有効活動」をテーマに、お取引業者様と連携した循環型仕入れの仕組み構築に取り組んでいます。技術の改良・開発に努め、より良い商品をお客さまにお届けするとともに、グループの技術や体制だけでは足りない部分を、お取引業者様と協力体制を築くことで、その開発に努めています。具体的には、鶏卵の仕入れで発生する鶏糞、豆乳の製造時に発生するおから・コーヒー粕などを、ワタミファームの堆肥(飼料)として利用しています。2005年度は、鶏糞273t・おから78t・コーヒー粕12tを堆肥(飼料)原料として使用しました。

